



遣伯使見聞録



Are you hungry? Esta com fome? (お腹へってる!?)

自分は「Hungry」という言葉が好きです。昔カップヌードルの宣伝で「Hungry?」っていうのがありましたね。

今は飽食の時代。有り余るほどの食べ物の中ではなかなかお腹は減りません。これは、情報も学習もいっしょ。調べなくても、考えなくても、インターネットがすぐに教えてくれます。異国の地に来て2か月半。お腹も減るし、知りたいこともいっぱい Hungry 状態でした。それを満たすことができ、本当に充実した時間でした。飽食で情報過多の時代だけど、少なくとも子どもたちには Hungry になってほしいと思います。ブラジルの子たちは「～したい!」という意欲が強いんです。日本の子どもももっと「知りたい」「やってみたい」「できるようになりたい」という Hungry になってほしいです。それができるのが、学校だと思っています。



夢かなう

ブラジルと言えばサッカー! チケットが手に入ったので、コリンチャンス vs インテルナシオナルの試合を観に行ってきました。アリーナ・デ・サンパウロはコリンチャンスのホームスタジアムで、2014 サッカーワールドカップの開会式が行われた場所です。熱狂過ぎるファンが危険かも? という不安は全くなく、熱狂的な応援に酔いしれました。ゲームの内容はいまいちでしたが、ブラジルのサッカーを肌で感じることができ、夢がかなった瞬間でした。

もう一つ、ブラジルが世界に誇る漫画家マウリシオ・デ・ソウザさんの会社兼製作所を訪問させていただきました。テーマパークのような会社でした。マウリシオさんが手がける「モニカ」は日本で言うところの「ちびまる子ちゃん」、何気ない日常生活の中にある出来事を取り上げ、心がほっこりしたり、はっと気づかせたりしてくれる作品です。豊橋市教育委員会にも寄贈されています。

「日本を見本にして、日本に恩返ししている」「日本の先生とブラジル人の子をつなぐものになりたい」と担当の方がおっしゃっていました。「モニカ」とそれに関わる人たちに会うことができ、もう一つ夢がかないました。



ブラジルジョーク

通訳さんに「ピアダ」を教えてくださいました。
「時々、誰が作ったのか知らないけれど、ブラジルの難解な政治や経済を比喩的にユーモアたっぷりに、的確に言い表しているピアダに出会います。このようなピアダの多くは、人々が仕事が終わった後、ビールやコーヒーを飲みながら、又はビジネスの場で語られ、広まって行くものです。時々重要な交渉の場であっても、ジョークを交えて話を進めて行くブラジル人のセンスには感心する事があります。」



ピアダ①

医者: 最近、ハードで危険な行動をした覚えがありますか?

患者: 時々、家内の意見に反抗します。

【「真実はどこに?」— ブラジル小話 (ピアダ) の世界】 (桜井 敏浩) より】

ピアダ②: お役人の勤務

屋下がり、ある省へ電話して、
「もしもし、ピアンコ局長はいますか?」「居りません。」
「午後は働かないのですか?」
「午後は出勤しないんです。働かないのは午前中です。」

ピアダ③: ブラジルの税金

ある工場に税務署員が調査に来て、
「帳簿は?」 — 「きちんとつけてます。」
「税金は?」 — 「きちんとすべて払ってます。」
「去年の利益は?」 — 「大変苦しかったけれど、少し黒字になりました。」
すると税務署員は、突然怒り出した。

「いいかげんなことをいうな。税金をちゃんと払って黒字が出る筈がない!」

ピアダは、政治や経済に関心があって、いろいろな言葉を知っていて、ユーモアがあって、そして頭の回転が速くないとできません。何気ない会話の中に少し皮肉めいたピアダを入れて、なんでも楽しんでしまうところにブラジルの感性は素晴らしいなって思います。



ムイット オブリガード! ~ナッツコラム~

ナッツといっしょに過ごしたブラジルでの2か月半、めっちゃ楽しかった。俺は白い時計のはずだけど、ブラジルの赤土でずいぶん赤っぽくなっちゃった! 小さなトラブルはいっぱいあった。「トラベルの語源はトラブル!」って言うくらいだから、そんなの当たり前。ここまで事故も事件も、けがも病気もなく来られたことに感謝せんといかんよ。特に通訳さんには公私ともにお世話になったね。通訳さんがいなくなったら、こんないい経験はできなかった。いろいろな人に出会い、助けてもらい、感謝・感動いっぱい旅だった。最後まで気を抜くことなく、さあいっしょに日本に帰ろう! (ナッツの腕時計より)

